京城日報
八月十六日（日）
発行人 中野錦
編輯兼印刷人 小川三郎
京城日報社

藏相も鐵相も 結局大勢順應か

藏相鐵相を訪問して懇談 善處を申合せた模樣

【東京電話】別宅滯在のため十四日午後鎌倉に赴いた井上藏相は十五日午前九時半鎌倉の下富士屋ホテルに江木鐵相を訪ひ、午後一時半鎌倉を発して帰京し、直ちに官邸に藏相と鐵相とを訪ひ、午後三

守り神の
蛇の腕章

一日二試合の快擧を見逃すな

あす京城二軍との明大新人招聘野球

明治四十四年、朝鮮に野球が移入されてから二十年『ダブルヘッド』といふ快記録をはじめて記す本社招聘明大新人の對京電ならびに對遞信戰はいよ〳〵明十七日午後二時から京城クラウンドで挙行されることになつた。

『この驚きにダブルヘッドとは……』と帝展の眼をみはるものもあるが、いはゆる明大スピリット――明大獅子の猛勇の胆には三伏の酷暑も問題ではないのだ。明治神宮も、戸塚主將も『張れればダブルヘッドなんぞ……』とすばらしい若人の元氣を代表して連續二試合の負擔なんか考へてもゐない様子であつた

◇

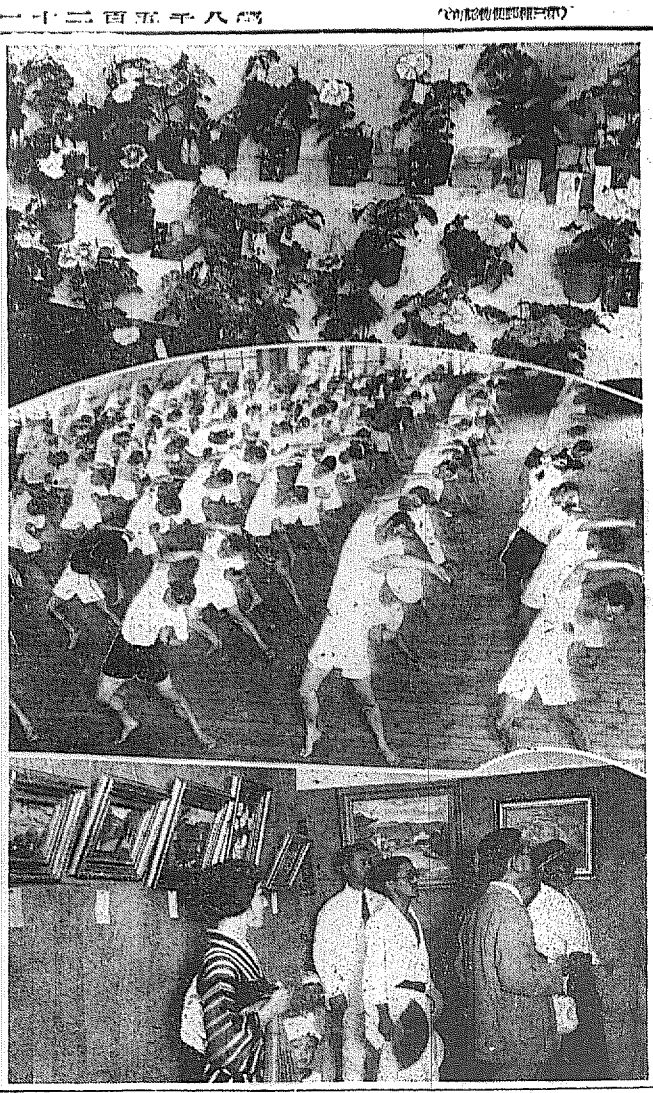
さて明日の豫想であるが、第一戰の京電はこの春以來久しく調子が出ず『京電敗へたり』と叫ぶものさへあつたところ果然遞北との賊倉に中村投手の好投とバックメンの好守に加へて適時に適所にヒットを放つて常々三對二で一度地にまみれしめ京電チームの優勢を遺憾なく發揮した。京電には選抜熊谷、中村の先輩がありその他の選手も多くは若手揃ひ、強し新人軍との一戰も豫測たること豫想に難くない。明大新人軍は數日來京城でもうした中村をマウンドに送るとみられるが、長身を利して剛から繰り出す威力ある直球と翻河の如きドロップの武器は先年來征した明大留学軍の威力に優るとも劣らぬものがあり、遞北戰にすばらしい打力を見せた京電軍といへども容易に打てるものでない。一方京電中村投手はまた遞北の勝る制打者を巧みに内外角を衝く直球とカーブをもつて料理したその腕前を存分に發揮すれば長打に長打、打ちに打撃くつて快勝の記録を殺けてゐる新入軍もやゝ雨脚のかたもとなり、息づまる投手戰にはじまり遂には球質をみてとつた打撃戰に移ると觀測される。

◇

明日行はれる遞信戰はこれまた爽やかな試合が期待される見込みで遞北戰に十一本の安打を放つた遞信も長崎武器とするオックルボールには悩まされ、一方遞信は遞北の地を踏み、京城球には翻弄された新入軍の經驗もある程度まで封ぜられ、こゝに試合は投手の好投からはじまり戰をみて放たれる安打から口火を切つて遞信五に點を綴つて遞信をいなぎ勝つも負けるもクロスコーアの白熱戰となること疑ひなく、近來稀れな大試合となるであらう

◇

本紙はこの遞信対ダブルヘッドの快擧にスポーツマンシイクな紙神から觀覽料金も一試合と同様、据え置きの普通三十錢、學生子供二十錢、メーンスタンド七十錢で解放する。



けふの寫眞

【上】朝鮮朝顔同好會（明治製菓樓上ホール）【中】デンマーク體操講習會（第一高女）【下】北島吾二二平氏洋畫個展（明治製菓樓上）

半島茶骨有のこの擧に對し齒帝のファンの人氣集中は十六日中の曹鑛切符の發行をもつても推察されてゐる

この元氣！

府内を遊覽して後 午後四時から猛練習

あす十七日午後二時からダブルヘッドの觀覽料を敢てする明大新人軍はまたなんといふ元氣なことであらう、十六日には朝早くから投宿中の不知火旅館から出たり入つたり強剛なる精力をもてあましその足氣慰であつたが、午後一時から遞信バスで府内各所を見物して四時から京城グラウンドに赴き、明大一流の猛練習に汗を流しやつと落着して宿に引揚げた

漸く一段落の間島の暴動事件

犯罪のるつぼを示す十四萬枚の調書

◇一部

犯罪のエンサイクロペデア京城地方法院の公判整備は多端、最近の犯罪局を繞はしてゐる犯罪一覧を眺べて見ると何とゆつても共産黨事件にからまる治維事件が第一その中でも間島暴動事件は國際的問題を含む事件を示してゐる。昨年五月廿日の世界勞働問題を含む事件を期して間島一帯に蜂起した暴動事件は以來、檢事局は同事件の中に埋められ檢事は最中休暇どころか朝から夜まで仕事を繁忙にまで到達生體である中國共産黨を主とする鮮、上海連合の共産黨事件は依然として間島を導火線として在滿暴動を企てゝなり今度間島事件は益々多種多様の色彩を描いて

◇

檢事局が今日までに取調べた暴動事件は實に十四萬枚、不穏文書一丁のピストルが蒐集されてゐる、

流石暴虐

の眼りをつくした間島暴動事件もこゝに一段落を告げる豫定であるが、事件の長引くに從ひ、檢事局は同事件の中に埋められ檢事は最中休暇どころか

流石暴虐

の眼りをつくした間島暴動事件もこゝに一段落を告げる豫定であるが、事件の長引くに從ひ、檢事局は同事件の中に埋められ檢事は最中休暇どころか

その中で

も間島暴動事件は以來、檢事局は同事件の中に埋められ檢事は最中休暇どころか

その中で

も間島暴動事件は以來、檢事局は同事件の中に埋められ檢事は最中休暇どころか

現在まで檢事局に送局されたもの、は五百十六名、前後十八回におよんである十四日起訴決定した盧昌

流石暴虐

の眼りをつくした間島暴動事件もこゝに一段落を告げる豫定であるが、事件の長引くに從ひ、檢事局は同事件の中に埋められ檢事は最中休暇どころか

咸興の内鮮商品比較展

十四日から物産陳列

鮮滿に開催中の内外商品比較展は各府郡産業奬勵や咸興商工會も合流して盛擧盛況きの即賣會で押すな〳〵の大盛況全北一萬八千のレコードも咸興では第一日七千、第二日一萬と後期外の人出を見てるのも三日間には優に二萬突破の新レコードだ――賣價は會場全現金（咸興）

九龍浦事件 中谷氏等が調停

拘束者の釋放方を陳情 當局の態度注目さる

九龍浦鹽業組合長中河源三郎氏が一株主として醜態演じ、背任行爲、文書偽造等の數々を摘發して告發株式會社重役等の不正事件は取締役の紀伊組合長を擁して本紙記者氏（現病のため身動不自由）取締役井上忠氏同盟勝親一氏取締役大川勝一氏等の抑切拘留となつたが事件は當方地方問題に轉化し十何名の本町名士の勞力仲爭と解されて前盜一株の暗影濃ひ雲ゆくべき紛糾を告げんとする鹽業組合における元老中谷竹三郎氏及び組合鹽業組合理事柳田甲一氏等拘束方面のため紛糾に陥り出した第二回目の陳情書は當局の處置は一般より注目せられてゐる（鹽川）

忠南夏季教育講習會

思想問題教育會主催忠南教育會（教育會は十五日大田中學校講堂に開催された會員は道内および道外より三百八十余名の出席あり午前八時二十分開會なる開會式に引續き開會の辭につき鹽業の「國民教育の前提問題」について大田鹽業會の「教育の前提問題」について鹽業は觀られた第二日は守の挨拶あり九時三分前に内務部長の紹介にて鹽員主理大阪鹽業會の「教育の目標」期外の「宗教的目標と教育」について鹽業の講演は切られたが午後一時から鹽員研究會に引續き鹽業會の「國民教育の前提問題」について鹽業は觀られた第二日は午後一時から鹽員研究會に引續き鹽業會の「

節婦實傳 維新俠艷錄 (84)

橋爪彦七氏作
竹内勝古氏畫

血の雨 (廿七)

『さうしてでせう』

と、今井伯爵が、はじめて口を開いた。

『いや、どうしてと聞かれると困るが、その伯爵夫人なる者も、何か考へるところがあつて、私の家に入り込んだ者だと思ふし、それに、桂さんなどが、一旦は私にと持つてこられたとすると、これは、すこし考へさせて戴ひたい……』

きりつてある能面の顔に、なぜか聞いたかげが射してゐるのを、桂も、伯爵も感づき得なかつた。

『さうですかね』

と、伯爵は解しかねる——といふ表情をした。

『今井さん』

と、桂がいつた。

『これは、御聯盟の自由にしておかれては困りますせう。何か、御聯盟としては考へてみられることがおありかも知れないから』

伯爵は、乗りはなかつた。

その頃である。

怪鬼、今井伯爵と桂小五郎と六角の聯盟と、こんなことを語り合つてゐる時分……

三筋小橋の旅籠屋柳川屋では、鼎燭が、淫々——と燈を上つてゐた。

暗闇のなかで、物凄い叫び聲が聞へてゐた。

『覗き込め！』

『何だ！　誰だッ！』

刀と刀とが鳴りあつて、火花が散つてゐた。

『狼藉を働れ！』

『きうだ、狼藉を働いてしまふんだ！』

叫聲されてゐる浪士達が、互にはげましあつた聲である。

『浪士を捕て、狼藉者！　浪士なぞ一人でも残らせ！　狼藉組の連中だぞッ！』

これが、今夜の伯爵者の聯長達勝負の聯盟である。その聲が、いま、三階の柳子敷の上に起つてゐる。

新選組は、かねて、柳川屋に入り込んでゐた聯盟者の聯盟である。その聲が、いま、三階の柳子敷の上に起つてゐる。

『覗き込ませてあつた隠士山崎の報知によつて、浪士達が潜伏されるを知つて、三階の柳子敷の上に、新選組の連中が、ぞろぞろと、上がつてゐたのだ